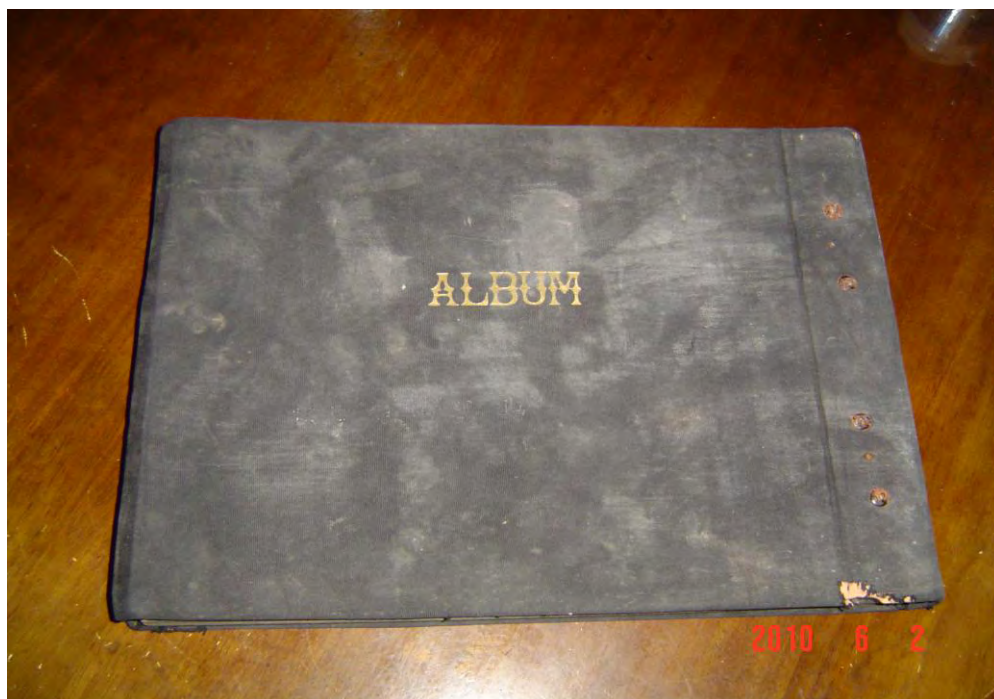


## 「吉田源治郎の世界」を訪ねる（15）



### 第15回 「間所兼次と共益社」お宝写真（1）

一昨日（2010年5月31日）午後、吉田撰氏と梅村貞造氏のご好意で、西宮一麦保育園での「吉田源治郎の世界」を学ぶ機会を持った。休憩なしの3時間余りたっぷりと話をお聴きすることが出来た。

そして今回もお二人から、多くの大切な図書と資料をお預かりすることになった。その量が余りに多いためこの度も、吉田氏の自動車でわざわざ神戸長田の拙宅まで運び届けていただいた。

その前日は、昨年本サイトで紹介した「賀川豊彦のお宝発見：武内勝関係資料」所蔵元の武内祐一氏（武内勝氏のご子息）とお会いする機会があり、現在「吉田源治郎の世界」を連載中であることを申し上げたところ大変喜んで、祐一氏がまだ幼い頃、一麦寮で武内・吉田両家が一緒に過ごしていた時の、懐かしい思い出をお聴きした。

余談であるが、昨年（2009年）12月末で一応の節目となった「賀川献身100年記念事業オフィシャルサイト」で「武内勝の世界」を訪ねた連載を94回で「最終回」となっているが、実はその「お宝」の閲読はその後も継続中で、続きの作業を進めていた途中、今回の思いも掛けなかった「第2のお宝」が天から降ってきたということで、ただ今わが「番町出合いの家」には「KAGAWA GALAXY」の「お宝」で満杯なのである。

### 「ALBUM」（「間所兼次と共益社」関係）

今回お預かりした資料の中に、最初に掲げた「ALBUM」があり、そこには「間所兼次と共益社」関係の多数の写真が収められていたのである。「ALBUM」にはその外の当時の写真も挟み込まれていて、恐らくどの写真も「お宝」ばかりのものではないと思われる。

兼次が消費組合協会でその機関紙「消費組合時代」を発行していた時などに掲載されて来たものもあるかも知れないが、先の回で『賀川豊彦写真集』に収められていた「共益社関係」のものは殆ど紹介済みであるので、今回から数回に分けて、この度の「ALBAMU」の中から「お宝」を覗いて見たいと思う。

### 購買組合共益社の創立（大阪市西区鞠中通3丁目15）

大正9年11月3日（中央賀川豊彦 前列椅子に座る背広姿2人目間所兼次）



兼次のメモには「営業開始の輝かしきスタートを記念して」「家賃125円」と記されている。

既に見た如く「購買組合共益社」は大正9年1月11日が「設立日」で今井嘉幸を組合長として事業を開始した。間



神戸購買組合の開店（大正9年）

所兼次は、大正8年から設立準備に当たってきたのである。

兼次の「ALBUM」には、「共益社その創立」の写真の下に、上の写真を貼り付けて「神戸購買組合の開店 大正9年」と説明書きを加えている。大阪の共益社の方が準備に取り組みむスタートは少し早いようであるが、神戸購買組合が大正10年4月12日に、灘購買組合が同年5月26日にそれぞれ創立を迎えるまでの準備期間を考えると、賀川の関係する購買組合の発足は、相互に影響し合って進められていたことを窺がわせるものである。

下の2枚の写真に、兼次は「靱共益社裏庭にて 鈴木文治氏 9. 11」と記し、もう





1枚には「靱共益社階上には 友愛会長鈴木文治氏の書が輝く」とある。これを見る限り、当時の兼次にとって「鈴木文治」の存在は大きかったのであろう。

「ALBAMU」の中にあつた左の写真は、鈴木文治とユキ夫人、抱かれているのは長男文彦？と思われるが

「大阪朝日新聞社編輯局社会部 13・4・25」の印があるので数年後のものであろうか。

なお同じく「大阪朝日新聞社編輯局社会部」の印で「14・？・6」とある右の「早大教授安部磯雄」と「15・11・10」の印のある下の「吉野作造」の写真も存在する。



さらに「ALBUM」には、右の「金子忠吉」の写真も収められている。裏には「1928・1」とある。

金子は、共益社創立の時は監事を引き受けており、1930（昭和5）年の「大阪朝日」の記事を見るとこの時は「共益社理事」の肩書きがある。

今回はここまでとしてこの「お宝写真」は次回へと続く。

（2010年6月2日記す。

鳥飼慶陽）

